

課題名：A型胃炎の臨床病理学的特徴の検討

1. 研究の対象

2015年4月1日から2023年3月31日までにA型胃炎と診断された患者さん

2. 研究目的・方法

A型胃炎は1973年に提唱された特殊型胃炎で、無酸症と高ガストリン血症を呈し、悪性貧血とともに、胃癌や胃NET (Neuroendocrine tumor) の発生母地として知られています。またA型胃炎は自己免疫性胃炎とも呼ばれ、抗胃壁細胞抗体や抗内因子抗体がその発生に関与することが知られており、他の自己免疫疾患との関連が報告されています。

A型胃炎の内視鏡所見は、胃体部粘膜の高度萎縮を認めるが、前庭部粘膜には萎縮がない逆萎縮パターンで、通常Helicobacter pylori陽性胃炎による、前庭部から胃体部に及ぶ萎縮とは異なるのが特徴的な所見とされています。

一般的にA型胃炎は悪性貧血やI型胃NETの精査で診断されることが多く、稀な疾患と考えられています。そのため、A型胃炎の実態は未だ明らかになっていないことが多く、高ガストリン血症の定義や、抗胃壁細胞抗体が必ず陽性でなければならないのかなど、明確な診断基準は確立されていません。また、疾患の頻度についても、以前我々が行った検討で、これまでの報告と比較しても多い可能性が考えられるなど、詳細な検討を行う必要があると考えられました。

そのため、A型胃炎の臨床病理学的な特徴を検討し、その特徴を明らかにすることを目的に観察研究を行うこととしました。

本研究では川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の承認を得ています。

研究期間は倫理委員会承認日～2023年8月31日の予定です。

3. 研究に用いる資料・情報の種類

本研究は通常の診療における既存資料(背景、現病歴、身体診察所見、治療方法、臨床経過、内視鏡検査結果、組織検査結果など)のみを用いた研究であるため、新たな人体試料の採取は行いません。この研究では、診療上必要とされた血液検査の結果を研究に使用させていただきます。この血液検査の項目には一部保険適応外の項目が含まれますが、この費用は教員研究費及び教室費で賄います。また、個人が直接同定される情報は匿名化を行った後に、データ解析を行うため外部に漏れることはありません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問、もしくは研究に参加いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。

〔研究責任者〕

川崎医科大学総合医療センター 内科(役職 内科部長) 河本 博文  
連絡先：086-225-2111 (代表)

## 5. 利益相反

研究をするために必要な資金をスポンサー(製薬会社等)から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究は製薬会社等から提供された研究費を使用しません。このことを利益相反委員会に申告し適正に管理されています。